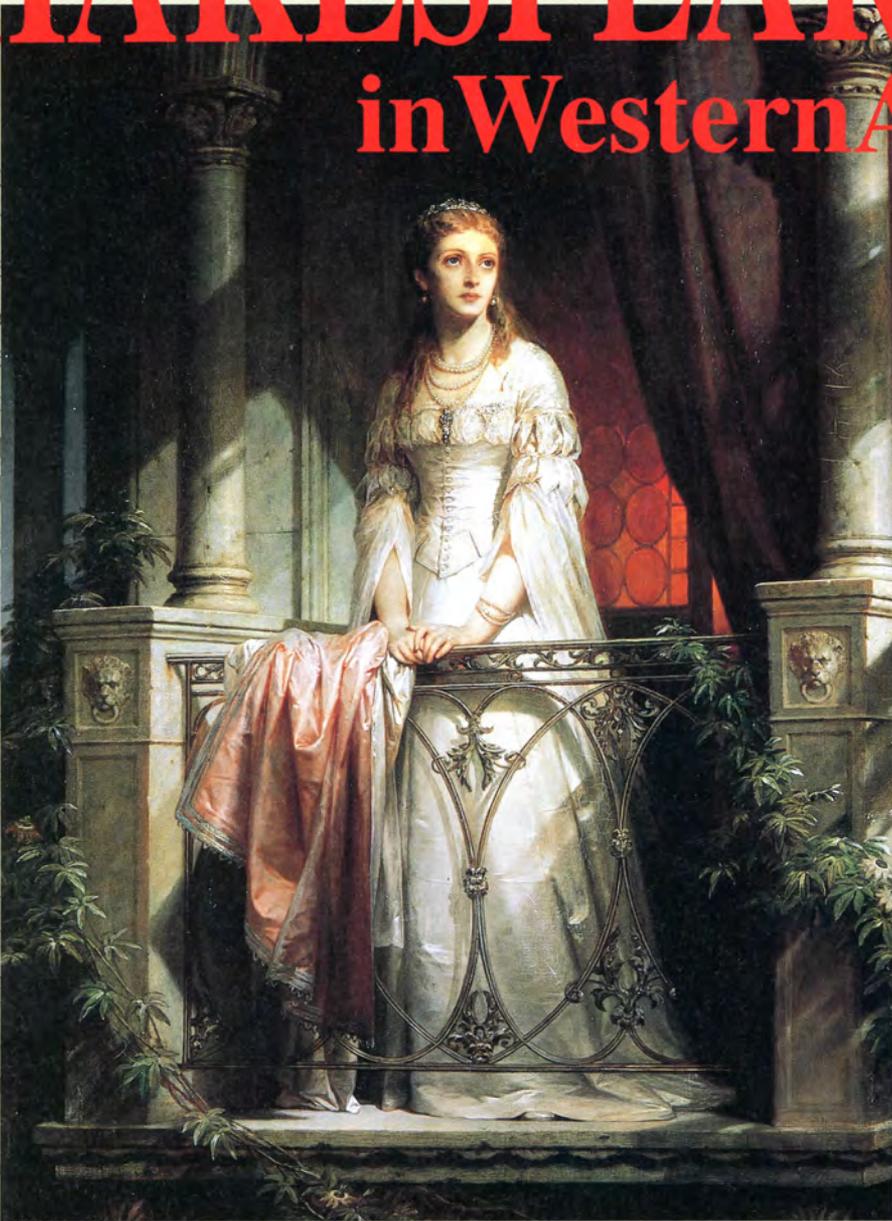


# SHAKESPEARE in Western Art

something if not pict  
 es any visual ser  
 y before his eye  
 t only incredibly  
 d that he mingle  
 y, thereby creatin  
 ly does justice t  
 eems to be no sl  
 e most touching  
 est farce to the c  
 compass; and as  
 for him, he is  
 onsters and fair  
 . The time scal  
 e move to Imper  
 e Middle Ages  
 in whose reign  
 n the context of  
 ss term. Many of  
 eternally releva  
 wards, have dem  
 with time, so wit  
 nd to Ephesus, W  
 um. More often and more  
 hat are not so much geograp  
 places of magical enablement  
 est of Arden, a wood near  
 nd.  
 infinite riches, it is hardly st  
 fifty years, from the mid-eig  
 became seriously engaged w  
 eth century when the notion  
 whatever type, went out of fa  
 stible source of inspiration.



「バルコニーのジュリエット」T.F. ディクシー

## 西洋絵画のなかの シェイクスピア展

1993年2月19日(金)~3月28日(日)

午前9時~午後5時 / 入室は午後4時30分まで  
 (初日は午前10時オープン・毎週金曜日は午後7時まで) 月曜休館日

**高松市美術館** 高松市紺屋町10-4 Tel.0878-23-1711

入場料◆一般=900円 高大生=600円 小中生=300円  
 (前売りおよび団体20名様以上は2割引)

主催/高松市美術館・四国新聞社・西日本放送 後援/ブリティッシュ・カウンシル 協力/日本航空

# SHAKESPEARE

歴史的事件を含めて既存の物語に主題をとった絵画は無数にある。いわゆる歴史画だ。そもそも歴史画こそ絵画の主流だった。これは、17世紀に風景画のジャンルが確立してからも、そして19世紀に印象派が、あるいはラファエル前派が、あるいは象徴派が新しい美の世界を展開した時点でも、変わらなかった。その伝統ある歴史画のなかで、もっとも頻繁に絵画化されたのは、一つは聖書、もう一つはギリシャ・ローマ神話である。そして文学作品では、シェイクスピアが筆頭グループに入る。〈夢魔〉で有名なフェーズリク・オフィーリアの画家ミレー、「宿命の女」をつぎつぎに描いたウォーターハウスなど、シェイクスピア劇の名場面や登場人物を作品にした画家は、当然イギリスのアーティストが圧倒的に多いが、ドラクロワなど、他国の画家たちもシェイクスピアに靈感を求めている。世界各地に愛蔵されているこれらの作品を一堂に集めることは、絵画の愛好者にとっても芝居好きの人間にとっても、大きな夢であった。『ロミオとジュリエット』や『ハムレット』を始め、シェイクスピアの魅力の全貌に触れる絶好の機会であると同時に、イギリス絵画の歴史を展望することにもなり、人気上昇中のラファエル前派特有の神秘とロマンに富んだ物語絵を堪能でき、また、かつての欧米の舞台で喝采を浴びた名優たちにも会えるという、とても贅沢な美術展だ。

(一橋大学教授:河村錠一郎)



「オフィーリア」ジョン・ウィリアム・ウォーターハウス



「ロンドン塔幽閉の王子」J.E.ミレー



「マクベス夫人を演ずるエレン・テリー」J.S.サージェント

## 講演会「シェイクスピアと絵画」

講師/河村 錠一郎(一橋大学教授)

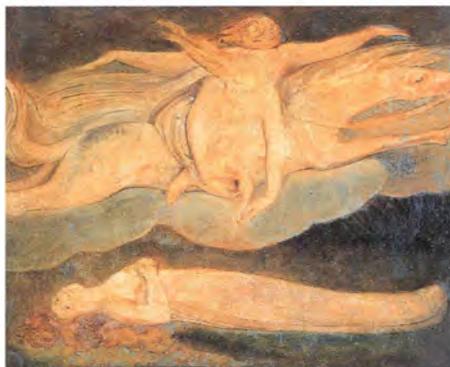
2月20日(土)午後2時より

美術館1階講堂にて

入場無料 先着200名様



「三人の魔女に出会ったマクベスとバンクォー」ヘンリー・フェーズリー



「あわれみ」ウィリアム・ブレイク

in Western Art

次回の催し物

レンフィルム祭—映画の共和国へ—

3月19日(金)~21日(日) 美術館1階講堂にて 1回500円